

目的

- ◆ 当事者意識を引き出し、学習のモチベーションを高める
→自分が実は社会保障との密接な関係の中で生きている（いく）ことをしっかりと認識させる
- ◆ 先生の授業展開の充実に寄与する
- ◆ 映像の活用により、一定の均質性を備えた授業の展開を可能とする

基本的な 考え方・ アプローチ

- ▶ “つかみ”を最優先とした作り
→視聴後に当事者意識をもって考える学習に臨む状態を作るためには、伝えたいメッセージを絞り込んでの作成が効果的ではないか
→視聴後に、議論や制度の学習などがしやすいように、紙ベースの副教材と合わせた授業展開例を準備
- ▶ 伝えたいメッセージは、「社会保障は身近なもの、大事なもの、みんなで支えるもの」
- ▶ 従って、以下のようなアプローチをイメージ
 - ① 高校生の視点から描く（基本的に実写が望ましい）
 - ② 病気、障害、年金、介護、死……等、身近な人に発生する社会保障関連の「事件」を描く
- ▶ ストーリーの詳細はプロの企画力を活用（公募）。
テーマを分けて複数本作成する企画でも映像の長さは計20分程度を想定（ヒアリング結果より）

入れ込むべき内容

- ◆ 基本的に「社会保障を教える際に重点とすべき学習項目」をその内容とする。
- ▶ 社会保障の理念・考え方
 - ・ 社会保障制度は、市場経済では果たせない所得再分配を担っていて、国民一人ひとりの生活を守ると同時に経済・社会の活性化にも役立っていること
 - ・ 社会保障制度は国民一人ひとりが支えていかなければならないものであること
- ▶ 社会保障の内容（社会保険を中心に）
 - ・ 医療保険の意義・しくみ（病気・ケガのリスクを保障するものであること、3割負担 など）
 - ・ 年金の意義・しくみ（仕送り方式で、扶養を社会化したものであること、納付特例制度、遺族・障害年金 など）
等